

コンソーシアム = 学校運営協議会（既存のコミュニティスクールの仕組みを活用）

地域

課題

人口減少による担い手不足のため地域の産業やコミュニティを維持していくことが困難

求める人物像

卒業後に地域で就職又は将来地元で就業し、地域づくりにも積極的・主体的に関わる人材

小国高校

教育目標

知・徳・体が調和し、人間力に満ちあふれた人材  
広い視野と高い志をもって、地域に貢献し国際社会に生きる活力ある人材

白い森人

協働

地域協働学習  
実施支援員

実践的なキャリア教育

地元産業界等の協力の下、地域に密着した実践的な職業体験

- ・企業発信型長期間インターンシップ
- ・地域の若者企業人懇談会 ・行政講話
- ・農林業にかかわる営利活動体
- ・生徒発案によるボランティア・地域貢献活動等
- ・地域資源活用ビジネスプランコンテスト

課題

カリキュラムをより実践的な取組としていくことが必要  
地域や小中学校との一層の連携が必要  
地域外との交流等を進め多様性を確保していくことが必要

支援

外部人材の活用

地域内だけにとどまらない幅広い分野で新しい価値を提供

- ・アントレプレナーシップ教育
- ・地域外で活躍する人と交流
- ・ファシリテーション研修 ・大学連携
- ・ICT遠隔教育

実践的な白い森未来探究学と教科横断的な取組

生徒が生活の場である小国町を理解し、地域課題について解決策を検討して自ら実践

- ・白い森未来探究学 ・地域の実践的な主体と協働  
「1年 地域文化・2年 地域実践・3年 地域構想」
- ・小国町ならではの働き方・暮らし方を検討
- ・高校生議会 ・大学での研究室活動、各種発表
- ・地域課題中学生グループセッション

カリキュラム開発等専門家  
高校の取り組みを具体化

小中学生にとって小国高生が地域を担うモデル像となる

第2回全国高等学校  
小規模校サミット開催

保小中高一貫教育を活用  
地域交流学習・教育フォーラム発表

保・小・中の白い森学習で培われた郷土愛



ふりがな	しろいもりびとそうせいぷろじえくとちーむ	ふりがな	やまがたけんりつおぐにこうとうがっこう
管理機関名	白い森人 創生プロジェクトチーム	学校名	山形県立小国高等学校

## 2019年度 地域との協働による高等学校教育改革推進事業 実施体制の概要

### 1 管理機関・学校の概要

#### (1) 管理機関名、代表者名

管理機関名：白い森人 創生プロジェクトチーム

代表者名：小国町長 仁科 洋一

#### (2) 学校名、校長名、研究を実施する学科

学校名：山形県立小国高等学校

学科：普通科 専門学科 総合学科

校長名：地主 好

### 2 取組内容

先進的な地域課題研究等の実績を踏まえた、地域人材育成に資する発展的な実践を行う。

山形県立小国高等学校（以下「小国高校」という。）は、2001年度に文部科学省研究開発学校として連携型中高一貫教育を実践し、その後、2018年度から保小中高一貫教育を推進し、また、東北の高校としては初となるコミュニティ・スクールの指定を受けるなど地域と連携した先進的な取組を行っている。かかる先進的な取組の特性を活かし、小国高校では、生徒が他地域との比較や地域の人々との関わり等を通じて自身の生活の場である小国町を理解するとともに、それらの活動を通じて見えてきた地域課題について解決策を検討して自ら実践する研究・学習活動（小国町での地域学習とキャリア教育とを複合させた研究・学習活動。以下「白い森学習」という。）を展開している。

本事業においては、小国町指定の保小中高一貫教育を一層活用し、小国高校における白い森学習を地域人材としての個性の確立を図る段階と位置づけるとともに、コンソーシアムである山形県立小国高等学校学校運営協議会（以下「学校運営協議会」という。）を活用し、地域の様々な主体と協働することにより、より効果的・実践的な取組に発展させる。これにより人口減少が進む中山間地域等における小規模高校の地域との連携のモデルを実証することを目指す。

具体的には、白い森学習の一環として、地域の諸課題を研究テーマとして設定し、大学の研究者等や地域関係者からの協力・指導を得ながら研究を行う探究型の学習活動である「地域文化学」を総合的な学習（探究）の時間の中で実施している。地域文化学は、小中学校での地域学習の延長で現在1年次を対象として行われているところ、これを「白い森未来探究学」に改称し、3年間かけて2、3年次まで拡充するとともに、地元産業界等と提携してより地域に密着した実践的な研究活動に発展させる。また、教育課程外の取組においても、実践的な白い森未来探究学で得られた知見や経験を生徒の出発点とし、地元産業界等の協力の下、農林業に係る営利活動体験、企業発信型の長期間にわたるインターンシップへの参加など、地域に密着した実践的なキャリア教育を行う。さらに、これらの過程において、大学との連携、ICTを活用した遠隔教育の導入、アントレプレナーシップ教育等により積極的に外部人材等を活用することで、生徒に地域内だけにとどまらない幅広い分野で新しい価値を提供するようなカリキュラムを研究開発する。

### 3 管理・運営方法

#### (1) 高等学校と地域との協働によるコンソーシアムの体制

小国高校は、山形県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則（平成29年山形県教育委員会規則第1号）に基づき、学校運営協議会を設置し、高等学校では県内初のコミュニティ・スクールとして指定された。本事業では以下の機関の代表又は構成員等によって組織される学校運営協議会をもってコンソーシアムとする。

機関名	機関の代表者名
小国町	仁科 洋一（町長）

小国町教育委員会	遠藤 啓司 (教育長)
山形県立小国高等学校	地主 好 (学校長)
山形県教育委員会	菅間 裕晃 (教育長)
山形県立小国高等学校同窓会	安部 昌晴 (会長)
山形県立小国高等学校後援会	伊藤 明芳 (会長)
山形県立小国高等学校PTA	渡邊 重信 (会長)
小国町認定農業者協議会	大谷 健人 (会長)
小国町森林組合	河内 昭佐 (代表理事組合長)
クアーズテック株式会社小国事業所	菊池 俊之 (所長)
日本重化学工業株式会社小国事業所	谷川 芳和 (所長)
小国町商工会	伊藤 通芳 (会長)
学識経験者	安藤 耕己 (山形大学地域教育文化学部准教授)

## (2) 将来の地域ビジョン・求める人材像等の共有方法

2019年度の第1回学校運営協議会において将来の地域ビジョン及び求める人材像等を共有する。

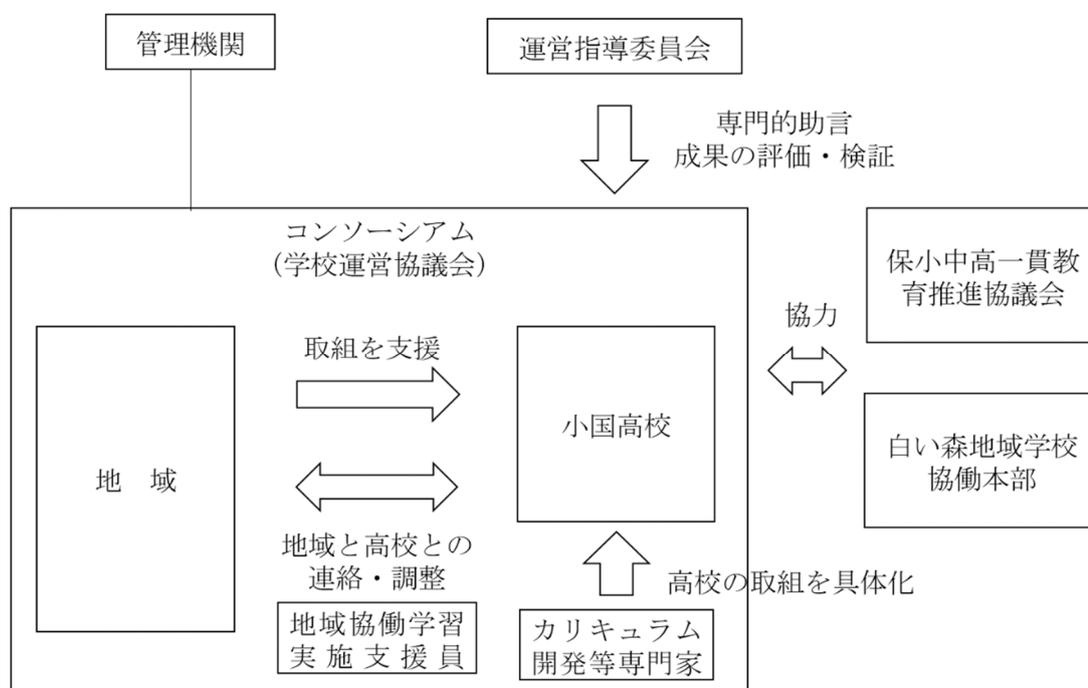
人口減少による担い手不足は、県内でも高い町民所得を維持してきた小国町の地域経済を維持していくに当たって重要な課題であり、小国町唯一の公立高等学校として町民の多くを生徒とし、町の中核企業等や地域活動に貢献する多数の人材を輩出する役割を担ってきた小国高校の存続と一層の魅力化の推進は、町の存続と一層の魅力化にもつながるものである。このため、小国高校には、卒業後に小国町を始めとする地域で就職又は将来地元で就業することにより地域経済に貢献するとともに、地域づくりにも積極的・主体的に関与してコミュニティの維持に貢献する者を引き続き輩出してもらうことが重要である。

このような将来の地域ビジョンや求める人材像等は町内関係機関の間で広く共有されたものであり、実際、学校運営協議会の委員が所属する組織・団体を含む町、関係団体、産業界、有識者、金融機関、高校生等の意見を広く聴取して2015年10月に策定された地域創生総合戦略の中でも、特に重視すべき課題として地域を支える人の減少への対応や雇用の場の創出による若者が住み続けられる環境づくりを挙げ、今後講ずべき施策の基本方向の中で、小国高校の役割を再認識し、魅力アップさせる取組を充実させていくことが必要であると謳っている。

## (3) コンソーシアムにおける研究開発体制

- ・管理機関：本事業の実施責任者として事業の進捗を管理し、コンソーシアムを通じて小国高校に必要な支援を行う。なお、機動的・効率的な運用を行うため、管理機関の下に実務者レベルの会議を設置し、年4回程度の会合を開き、事業管理を行う。
- ・コンソーシアム：教育課程である白い森未来探究学がより地域に密着した実践的な研究活動となるよう、また、教育課程外の取組においても、白い森未来探究学で得られた知見や経験が生徒にとっての出発点となって地域に密着した実践的なキャリア教育を行うことができるよう、学校運営協議会全体として又は関係する構成団体が小国高校に必要な協力を行う。  
 なお、コンソーシアムは、保小中高一貫教育推進協議会（学校教育関係者等により構成され、保小中高一貫教育を推進する母体）と白い森地域学校協働本部（町内の企業、NPO、各種団体・機関、サークル等で構成され、地域と子ども、家庭、学校とをつなぎ、学校支援、放課後活動、土曜・長期休業活動、地域活動等を通じて子どもたちの学びと育ちを支援する任意団体）とも連携する。
- ・運営指導委員会：本事業の運営に関し、専門的見地から指導、助言を行うとともに、年度末と年度途中の2回にわたって本事業に係る構想や進捗等について諮り、成果についての検証・評価を行う。
- ・小国高校：校内に推進委員会を設置し、カリキュラム開発等専門家と協力しながら研究活動を実施する。

- ・カリキュラム開発等専門家：本事業による高校側の負担を軽減するため、校長の指示の下、コンソーシアムで示された教育課程における白い森未来探究学や教育課程以外の場におけるビジネスや地域貢献について考えるための取組について、町担当部局や産業界等と協議しながら具体化する。
- ・地域協働学習実施支援員：カリキュラム開発等専門家や担当教員の求めに応じ、ワンストップで町担当部局や産業界を始めとした地域内外の関係各所・各者との連絡・調整を行う。



#### (4) カリキュラム開発等専門家の指定及び配置計画

岡崎エミ准教授（東北芸術工科大学コミュニティデザイン学科長）をもって指定する。

#### (5) 地域協働学習実施支援員の指定及び配置計画

小国町統括コーディネーター・CS ディレクターをもって指定し、小国町教育委員会内に配置する。

#### (6) 運営指導委員会の体制

岡崎エミ准教授（東北芸術工科大学コミュニティデザイン学科長）、の牛木力氏（島根県 津和野高校 魅力化コーディネーター）、阿部剛志氏（三菱UFJリサーチ&コンサルティング）ら小国高校と関係の深い有識者3名により構成する。

#### (7) 研究成果報告・事業成果の検証に向けた計画

地域内においては、保小中高一貫教育推進協議会が主催する町民向け教育フォーラムや産業界での会合において成果を報告するとともに、ホームページや広報誌等町・町教育委員会・小国高校等が有する媒体を用いて積極的に広報する。また、地域外については、全国サミット（仮称）や小国高校で開催する全国高等学校小規模校サミットでの発表等を通じて教育の場での普及に努めるとともに、移住定住施策の事例として同種の課題を抱える自治体に向けた発信を行う。

事業成果については、年度末と年度途中の2回にわたって運営指導委員会に本事業に係る構想や進捗等について諮り、検証・評価を行う。

#### (8) 管理機関又はコンソーシアムによる主体的な取組・支援

コンソーシアムに町長部局や産業界等を加え、現場で地域課題に向き合う又は実際の生産活動を行っている主体と連携し、小国高校が希望する実践的な取組を行う。また、キャリア形成にお

いては、コンソーシアムを構成する団体が企業発信型のインターンシップ、ボランティア・地域貢献活動、公的イベント（高校生も対象としたビジネスプランコンテストや町内企業の若手社員と高校生との懇談会等を想定しており、小国高校以外に進学した生徒や町外の生徒も対象として多様な価値観を育む地域づくり活動とする予定）等の場を設定し、生徒が参加をしやすい環境づくりを行う。さらに、これらの過程において積極的に外部人材等を活用するための所要の支援を行う。

#### **（９）事業終了後の継続的な取組の実施に向けた計画**

小国高校は既にコミュニティ・スクールとして運用を始めていることから、学校設置者である山形県教育委員会等による協力の下、引き続き学校運営協議会での取組を行っていく。

なお、本事業の終了後も小国高校と地域との連携は引き続き重要であるため、カリキュラム開発等専門家や地域協働学習実施支援員の職務の見直しを行いつつ、小国高校と地域とをつなぐ役割を担う者を配置していく予定である。

2019年度 地域との協働による高等学校教育改革推進事業 研究開発の概要

指定期間	ふりがな	やまがたけんりつおぐにこうとうがっこう				②所在都道府県	山形県
2019～2021	①学校名	山形県立小国高等学校					
③対象学科名	④対象とする生徒数					⑤学校全体の規模	
	1年	2年	3年	4年	計	生徒総数 82名、5クラス (2018年4月現在)	
普通科	40人	40人	40人		120人		
⑥研究開発構想名	白い森人 創生プロジェクト						
⑦研究開発の概要	総合的な学習（探究）の時間で実施している地域文化学（白い森未来探究学に発展）や教育課程外のキャリア教育を地元産業界等と提携して地域に密着した実践的な研究・教育活動に発展させる。これらの過程において、積極的に外部人材等を活用し、生徒に幅広い分野で新しい価値を提供するようなカリキュラムを研究開発する。						
⑧研究開発の内容等	⑧-1全体	<p>(1) 目的・目標</p> <p>小国町指定の保小中高一貫教育を一層活用し、小国高校における白い森学習（小国町での地域学習とキャリア教育とを複合させた研究・学習活動）を地域人材としての個性の確立を図る段階と位置づけるとともに、コンソーシアムである高校の学校運営協議会を活用し、地域の様々な主体と協働することにより、より効果的・実践的な取組に発展させる。このためには、改編されるコンソーシアムがより主体的な実践者となっていくことが重要である。この過程において、人口減少が進む中山間地域等における小規模高校の地域との連携のモデルとなり得るような、「知・徳・体が調和し、人間力に満ちあふれた人の育成を目指し、広い視野と高い志をもって、地域に貢献し国際社会に生きる活力ある生徒」（小国高校の教育目標）を創生することを目指す。</p> <p>(2) 現状の分析と研究開発の仮説</p> <p>小国高校では、保小中高一貫教育やコミュニティ・スクールといった先進的な取組を行ってきたところ、地域（コンソーシアム）が真に実践者となり、高校と一層の協働を図るようになるためには、以下の3つの課題があると分析している。</p> <p>①コミュニティ・スクールの特性を活かした地域における実践的な主体との連携</p> <p>課題：地域文化学の取組が町内の豊かな自然又は伝統文化を体験する活動、地域にある自然産物の科学的分析などのアプローチに終始している。そのため生徒が将来の地域における自己の役割を見出しにくく、地域でのキャリア形成に十分にながっていない。</p> <p>仮説：現場で地域課題に向き合う又は実際の生産活動を行っている主体との連携を図ることにより、地域と連携した課題設定・解決、産業界の協力を得たキャリア教育といった実践的な取組を行う。これにより、生徒が将来の地域における自己の役割を現実的な形で捉え、地域の一員として主体的に貢献していく姿勢が養われる。このためには、そのような主体が学校運営協議会に参画することが必要である。</p> <p>②保小中高一貫教育を活かした小中学校との連携による白い森学習の段階的教育</p> <p>課題：町として保小中高一貫教育を掲げているものの、小中学校での地域学習の取組と高校での地域文化学の取組が十分に接続しておらず、その成果を地域文化学で活用できない。このため、小中学校でインプットされた地域学習やキャリア教育が高校の段階でさらに発展する形で学習体系を確立できていない。</p> <p>仮説：保小中高一貫教育を一層活用し、高校における学習を明確に位置づけ、地域の実践的な主体とともにアウトプットに力点を置いた内容を実施する。また、これに伴い、地域文化学を白い森未来探究学に発展・拡充する。これらをつなぐ者として、既存の経験豊富なCSコーディネーターをカリキュラム開発等専門家及び地域協働学習実施支援員とし、地域とのつながりを強化する。これにより、小中学</p>					

		<p>校で醸成された郷土愛を実践的な活動につなげ、社会的・職業的自立を促すことが期待される。</p> <p>③地域外での表現・交流の機会を増やすことによる多様性の確保</p> <p>課題：少子化による生徒数の減少やそれに伴う教員数の削減による学校規模の縮小、協力を得られる地域人材の制限、中山間地域という地理的な制約等により、教科横断的な取組や地域外との交流は限定的であった。このため、他者との比較によって生徒のアイデンティティを確立する機会に乏しく、内向きになりがちである。</p> <p>仮説：大学との連携や ICT を活用した遠隔教育の導入、アントレプレナーシップ教育等により積極的に外部人材等を活用する。また、生徒が表現・交流する場を多く提供する。これにより、地域内だけにとどまらない新しい多様な価値観をインプットすることができる。また、教員の負担減にも資する。</p>
<p>⑧- 2 具 体 的 内 容</p>		<p>(1) 地域との協働による探究的な学びを実現する学習の実施計画</p> <p>総合的な学習（探究）の時間において、生徒が目標を実現するのにふさわしい探究課題を設定し、課題を通して知識・技能、思考力・判断力・表現力、学びに向かう力、人間力等を育成すべく、地域の様々な主体を巻き込んで白い森未来探究学を 3 年間かけて行う。</p> <p>その他の教科では、白い森未来探究学で得られた知見を活かし、国語、地理歴史・公民、数学、理科、保健体育、外国語、家庭の教科の中で、科目の特性に応じ、地域資源の活用、地域指導者による指導、地域に貢献し得る諸能力の育成等の取組を行うことにより、本事業における学習を教科横断的なものとする。</p> <p>実践的で多様な価値観を養うため、学校外学習として、校外学習（山形大学工学部研究室での研究活動）や体験活動（長期休業中のインターンシップ）を行う。</p> <p>上記のほか、地域への理解を一層深めるため、各学年において町役場、企業、小中学校等とともに地域のイベント等課外活動を行う。</p> <p>(2) カリキュラム・マネジメントの推進体制</p> <p>カリキュラム開発等専門家が校長の指示の下、カリキュラム全体のマネジメントを行う。また、カリキュラム開発等専門家と密に連携し、教科統括主任（加配希望ポスト）が白い森未来探究学を担当し企画・運営するとともに、各教科主任に振り分け教科横断的な取組を行う。</p> <p>(3) 必要となる教育課程の特例等</p> <p>特になし</p>
<p>⑨その他 特記事項</p>		<p>特になし</p>